



編集発行  
 公益財団法人 不老会  
 〒460-0008  
 名古屋市中区栄  
 2丁目10-19  
 名古屋商工会議所内  
 9:00~12:00 13:00~17:00  
 土日祝休  
 電話 (052)203-4580  
 FAX (052)253-7123  
 ホームページ  
<http://furo-kai.or.jp>

# 新年のご挨拶

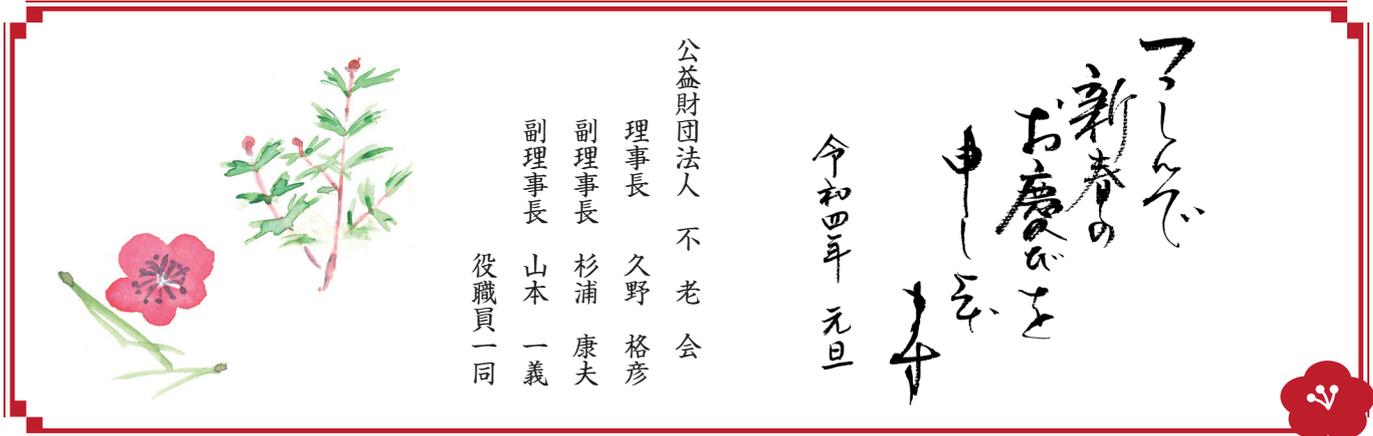
公益財団法人不老会 理事長 久野 格彦



明けましておめでとうございます。  
 不老会会員の皆さまにおかれましては、素晴らしい新春を迎えておられることと存じます。  
 さて、一昨年から猛威を振るっていた新型コロナウイルスの感染拡大も、昨年末には感染者数の減少傾向が続き、収束に向かっていくように見受けられます。  
 しかしながら、専門家の間では「第六波」に対する警鐘が鳴らされており、完全な収束は未だ見通

せない状況にあります。  
 昨年を顧みれば、不老会の活動もコロナ禍の影響を受け、中止、縮小を余儀なくされた一年間でありました。  
 そのような状況下で、不老会創立六十周年記念事業の一環として、昨年十月二十五日に名古屋市公会堂において記念式典が開催出来たことは、大変喜ばしく、その開催に向けた企画立案、準備、実施に沢山の方々ボランティアに参加、協力頂いたことに対して、心から感謝申し上げます。  
 誠にありがとうございます。  
 この記念式典は「人生、百年時代」献体までの元気な過ごし方と銘打って開催されました。日本人の平均寿命が年々延びてゆく現状を鑑みると、実にタイムリーな記念事業のテーマではなかったでしょうか。

式典当日は、生憎の冷たい雨でしたが(すいません、私、雨男です)五百名に及ぶ会員の皆さんにお集まり頂きました。  
 これだけ多くの会員の前で挨拶することが出来たのは、一昨年の六月に、理事長に就任して以来初めてで、元気な会員の皆さんのお顔を、直接拝顔しながらお話し出来たことに大きな喜びを感じました。  
 式典は、バイオリン・アンサンブル「HSE48」のウエルカム・パフォーマンスに始まり、ご来賓の祝辞に続き、名古屋大学大学院地域在宅医療学・老年科学の葛谷雅文教授に「健康長寿の秘訣ーフレイル(虚弱)予防と認知症予防」と題し、大変示唆に富んだ講演を頂きました。  
 そして最後に「和太鼓・志多ら」による演奏は、壮大、且つ繊細でメロディアスな表現で我々を魅了しました。  
 お開き口では皆さんから、「とても良い会だった」「感動した」とのお声を沢山頂き、主催者として開催の意義を深く感じ入りました。  
 献体を最終的な目標として掲げる不老会ですが、そのゴールに辿り着くまで、如何に健康で充実した人生を送るかは、会員お一人お一人にも、そしてそのご家族にも重要な課題です。  
 本年も引き続き皆さまのご理解とご支援を頂きますようお願い申し上げます。



## 医学のおはなし

長寿の時代になり、日本では平均寿命が男女ともに八十歳を超えました。長生きするということは

大変良いことですが、やはり皆様は健康長寿を願っておられると思います。なりたくない病気はたくさんあると思いますが、特になりにくい病気として認知症が挙げられるのではないですか。クロスワードパズルで脳を活性化する、ウォーキングし体を動かすなど、認知症予防を日頃から心がけておられる方も多いと思います。

認知症では神経細胞が死に脳が小さくなってしまいます。ではなぜ神経細胞は弱ってしまうのでしょうか？原因は人によって様々で、もちろん神経細胞自体の問題の場合もあります。しかし、近年の研究から、神経細胞の周りに存在する「神経細胞以外の細胞」の

問題である場合も多々あるということが分かってきました。脳は神経細胞が集まったものと思われている方も多いかもしれませんが、実は脳には「神経細胞以外の細胞」が神経細胞の十倍以上いると言われています。

不老会の皆様が医学教育のために

ログリアは、脳内の他の細胞とは異なり形を容易に変えることができるため、脳内を移動することが得意です。また、脳内の不要物を、食べるようにして自身の細胞中に取り込み分解する機能も持ちます。

認知症の代表として知られるアルツハイマー型認知症では、脳内に老人斑という有害な塊が現れ神

## 認知症の意外な原因

名古屋大学大学院医学系研究科  
機能組織学（解剖学第二） 准教授

小西博之

の病気の患者様が、病因や治療法の研究のために、死後にお体の一部を提供してくださる場合があります。認知症の患者様の脳、または認知症と似た病態を示すマウス

経細胞を弱らせてしまいます。ミクログリアは老人斑の周りに寄ってきてびったりと取り囲み、老人斑がそれ以上広がらないようにバ

は認知症と似た病態を示すマウスの脳の遺伝子解析から、「神経細胞以外の細胞」のうちミクログリアという種類の細胞が大事な鍵であることが分かってきました。ミク

リアを形成します。それと同時に、老人斑を食べ分解することで老人斑を小さくします。そのため、ミクログリアの機能が低下すると、老人斑がでやすくなり、または拡張

しやすい状況になると考えられています。

このようにお話をすると、ミクログリアを強く活性化させる薬を作ることができれば認知症が治ると思われるかもしれませんが、実はそう単純な話ではありません。ミクログリアを適度に活性化することは良いと考えられていますが、過剰に活性化させてしまうとミクログリアは様々な暴走を起します。例えば、本来は食べるべきではない、生きている神経細胞やその一部を食べて除去し、脳を壊してしまいますので、元も子もありません。

認知症は神経細胞が減ってしまう病気ですので、今までは主に神経細胞を標的として治療薬の開発が進められてきました。しかし、近年はミクログリアも重要な標的として認識されてきています。ミクログリアの良い面だけを引き出す薬が作れないかと、多くの研究者が日々研究を行っています。

# 第四十七回献体者顕彰式並びに 第三十七回御名札納め式(ごみょうさつ)

令和三年十一月四日 名古屋千種区平和公園内「献体の塔」において顕彰式と御名札納め式が執り行われました。昨年同様 規模を縮小し、五大学代表の方々と平和公園会、東山総合公園、不老会関係役員により感染防止対策を徹底しての開催となりました。

## 式 辞

理事長 久野 格彦

秋も深まり、爽やかな風を感じる季節となりました。

本日、ここ平和公園の高台にそびえる献体の塔にて、第四十七回献体者顕彰式並びに第三十七回御名札納め式を挙行するにあたり、不老会を代表して謹んでご挨拶を申し上げます。

本日の式典は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が段階的に緩和されているところでありますが、持続的な感染防止対策が求められていることから昨年と同

様に規模を縮小しての開催となりました。

この様な状況下ではありますが、本式典が厳粛に挙行できますことは、不老会会員一同にとってこの上ない喜びであります。

不老会は戦後最大の国家事業愛知用水建設事業の推進過程で犠牲になられた五十六名の御霊の慰霊鎮魂への思いから、医学の発展に寄与する献体組織として昭和三十一年一月に設立されました。

以来、今日まで医学・歯学教育の根幹をなす人体解剖に寄与する献体活動と視覚に障害を持つ方々に、光を与える献眼活動を展開してまいりました。

本日、御名札をお納めするこの献体の塔は、多くの皆さんの善意に支えられ、昭和六十年春に建立され、既に三十六年が経過したところであります。

不老会創立から今日までに登録会員総数は二万四千七百二名に達し、既に成願された会員の総数は一万九百五十一名となりました。そして、新たに本日献体の塔に御名札をお納めする会員は百七十九名の御霊であります。

ここに成願者の献体・献眼のご

意志を尊重し、お支え下さったご遺族の深いご理解とご協力に対し、衷心より敬意と感謝を申し上げます。

また、県内五大学の医学部・歯学部におかれましては、成願者の崇高な献体の志を無にすることなく手厚く迎え入れていただき、先進的な医学・歯学医療の教育に多大な成果をあげておられ、今後もより一層優れた医師や医療従事者の育成に、ご尽力されることを切望して止みません。

新型コロナウイルス感染症の脅威も、医療従事者の方々の懸命なご労苦ご努力のお陰で、終息に向かう光が見えつつあることは報道等で知るところであります。

そのような制約の多い厳しい状況下においても、解剖教育の充実に取り組んでいただいている事に深く感謝申し上げます。

われわれ不老会員は、無条件無報酬の献体・献眼運動に一層真摯にとりくみ、医学・歯学の進歩・発展に寄与し、眼の不自由な方々に光を与え、世界の平和のために



秋晴れの顕彰式

一人ひとりの力は小さくとも、互いに手を取り合って目的に向かって前進することをここにお誓い申し上げます。

来春一月には不老会は創立六十年を迎えます。

献体成就なされた先人の皆さんどうか私達不老会の活動をこれからもあたたかく見守りお導き下さい。

終わりに、ご遺族のご健勝と一万九百五十一名の御霊の安らかならんことをお祈りして式辞といたします。

### 顕彰のことば

愛知県知事 大村 秀章

公益財団法人不老会の第四十七回献体者顕彰式並びに第三十七回御名札納め式が挙行されるに当たり、謹んで顕彰のことばを申し上げます。

医学の進歩発展を願ひ、無償・無条件で献体をされ、本日「献体塔」に御名札が納められます不

老会物故会員の方々の御遺徳をたえ、その崇高なる精神に對しまして深く敬意を表します。

医学及び歯学教育における人体解剖実習は、今後の医療を担っていく学生が、医学の基礎である人体の構造と機能を学ぶために必要不可欠な場であるとともに、人間の尊厳、生命への畏敬の念を体得する極めて貴重な機会であります。

また、昨今における医学のめざましい発展に伴い、医師はより高度な手術手技の技量を求められており、御遺体を用いた研修は欠か



代読 愛知県保健医療局 技監 長谷川 勢子様

せないものとなっております。

さらに、目の不自由な方々のために角膜を御提供いただくことにより、多くの方々が光と大きな喜びを取り戻すことができます。

このように、献体により愛知県における医療の進歩・確保に大きく貢献していただいておりますことは、不老会会員の皆様方並びに御遺族の皆様方の深い御理解と御協力の賜物であり、ここに深く感謝申し上げます。

最後に、これまで献体をされた物故会員の方々の御冥福を心からお祈りいたしますとともに、今後、不老会の活動の輪が更に拡がりますことを御祈念申し上げます。顕彰のことばといたします。

### 慰霊のことば

献体先五大学代表

藤田医科大学

医学部長 岩田 仲生

本日、ここに公益財団法人不老会関係者並びに来賓各位のご参列



五大学代表 岩田 仲生様

のもと、第四十七回献体者顕彰式並びに第三十七回御名札納め式が執り行われるに際し、愛知県、医科・歯科系五大学を代表して、謹んで慰霊のことばを捧げます。

人体の構造を深く理解するための基礎的な学問である系統解剖が、医学或いは歯学を学ぶ医療に携わる者にとりまして、欠かすことのできない、極めて大切なものであることは、申すまでもございません。

医学・歯学の進歩発展を願ひ、また、人類の福祉増進のため、自

ら進んでご遺体を捧げられた方々は、不老会結成以来、一万九百五十一柱となりました。

また、不老会は、二万四千七百二名の会員を擁するまでになり、その比類なき功績は、周知のとおりであります。

この度も、自らのご意志により、ご遺体を医学・歯学の教育・研究のために捧げるといふ、皆様の崇高なる精神によつて、多くの学生・研究者が系統解剖を通じて、教知れない貴重な御教示と知見を賜ることができたのであります。

このような皆様の崇敬すべきご意志が、まさに日進月歩の近代医学を根底で支えていると申せましょう。

私どもは、この皆様の御恩徳に報いるため、尊いご意志を今後とも深く心に銘記し、医学・歯学の発展のための努力を更に重ねてまいることが、私どもに課せられた責務であることを痛感いたしております。

御成願されました皆様、どうか安らかに眠りください。

ここに、五大学を代表して衷心より御礼申し上げ、慰霊のことばといたします。

### 感謝のことば

献体先五大学学生代表

藤田医科大学 医学部三年

山田 祐太

本日、第四十七回献体者顕彰式並びに第三十七回御名札納め式にあたり、愛知県、医科歯科系五大学学生を代表いたしまして感謝の



五大学学生代表 山田 祐太様

ことばを述べさせていただきます。解剖学実習が始まり、初めてご遺体と対面したときの身の引き締まる思いは今でも忘れることができません。それは将来、先生とよばれるような職に就く私たちにとつて、最初の患者様との出会いの瞬間でした。

御身体から学ばせていただきましたことは、医学の知識や技術のみではありませんでした。医師としてどうあるべきか、人間としてどうあるべきか、人命の尊さ、人間の生きようを教えてくださいましたように感じられました。

私たち医学・歯学を目指す学生に、人体の構造や仕組みを学ばせるため、自らの御身体を提供してくださいました方々の、崇高なご意志に報いるため、努力を重ね、信頼される医師にならねばと、本日にここに誓いをあらたにいたします。

このような貴重な経験を私たちに与えてくださいました、ご遺族様の深いご理解、並びに努力を重ねられて今日の不老会を築いてこ

られました、不老会関係者の皆様に深く感謝いたします。

最後に、献体された方々のご冥福と、ご遺族様や不老会関係者の皆様のご多幸をお祈りいたしました。感謝のことばとさせていただきます。



11月3日 顕彰式にそなえて塔の清掃をしました。